

刻む会 たより

No.52

2014. 3. 10

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局

宇部市常盤町一―九(宇部緑橋教会内) Tel.0836(二)8003

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01590732405

名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com>

長生炭鉱水没事故七十二周年 追悼集会報告

―新井英一コンサート、十六年ぶりに歌声響きわたる―

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会 内岡 貞雄

1. 雪のため自動車道が通行止め

二〇一四年二月八日(土)、早朝からユキに見舞われ、宇部自動車道も山陽自動車道も通行止め。山口代表と写真撮影を引き受けてくださった山崎さん(緑橋教会)を同乗し、運転する私は気もそぞろに一般道を関釜フェリー国際ターミナルへ走らせました。幸い、道路は雪がなく行き交う車両も少なかったため、予定時間を少しオーバーしただけで現地に着きました。そこで井上洋子さん、金静媛さん、今回マイクロバスを二日間にわたり運転していただく楢野保雄さん(日本とコリアを結ぶ会(通称「ニコリ会」代表))と合流しました。すで

にロビーにおられた十四人の韓国ご遺族と通訳の堤美貴さんとお会いし、一年ぶりの再会を喜び合いました。今回初めて追悼式に参加される方は三人です。昨晚、しけのため関釜フェリー「星希(ヒョンヒ)」は大揺れだったそうで、皆さん少々お疲れの様子でした。

2. 「長生炭鉱追悼ひろば」の追悼式

追悼式の開始時刻には青空が出ていましたが、交通事情を考慮し十五分程遅らせて始めました。京都・和歌山から参加する在日ご遺族四人(うち、一人は初めてのご参加)は、新幹線の大幅な遅れのため午後か

ら参加しました。また新山口駅に迎えた「刻む会」の井上善兼さんは、皆さんを三時間も待つ羽目になりました。大変お疲れさまでした。

追悼式は約百人の参列者を迎えて、山口武信「刻む会」代表挨拶、金亨洙(キム・ヒョンス)「韓国遺族会」会長挨拶があり、続いて「追悼碑の説明」と続きました。追



韓国の遺族 14 名によるチェサ

悼碑は「二つで一つの追悼碑」であること、「ひろばの拡充」についての説明がありました。昨年十二月に三角柱の大きな看板が設置され、「ここがどんな場所であるか」、すぐにわかるようになったのは嬉しいことです。チェサ（祭祀）の後、参列者全員で献花を行いました。「追悼ひろば」に犠牲者の遺骨・遺品が全くないことは悔やまれてなりませんでした。



駐広島韓国総領事辛亨根氏 挨拶

3. 午後の追悼集会

今年の追悼集会は国道190号線を挟み、宇部市役所の真向いにあるヒストリア宇部のイベントホールで「刻む会」の井上洋子さんの司会で進められました。「刻む会」代表・山口武信さん、韓国遺族会会長・金亨洙（キム・ヒヨンス）さん、駐広島大韓民国総領事・辛亨根（シン・ヒョングン）さんの挨拶がありました。その後、遺族一人

ひとりの紹介のあと、遺族を代表して申載鳳（シン・ジェボン）さんが六項目の提言を訴えられました。その内容は、昨年韓国遺族会の孫鳳秀（ソン・ボンス）事務局長が提起されたのと同様でした。

一つ、日本政府は、海に眠る遺骨・遺品を発掘し、わが故郷へ持ち帰り安置できるようにすること。

二つ、犠牲者の名前を刻み、謝罪と合わせ、日本政府の名をもつて刻むこと。

三つ、日本政府は、西光寺の位牌を安置する場所を建立すること。

四つ、日本政府は、長生炭鉱の「水非常」を歴史にきちんと刻むため「ピーヤ」（排気・排水筒）を保存すること。

五つ、日本政府による追悼式を、政府の責任で行なうこと。

六つ、日本政府は、犠牲者遺族への謝罪とともに、精神的にも物質的にも補償を行なうこと。

4. 新井英一コンサート

コンサートは一時間という枠内で、彼の持ち歌、八曲が会場に響きわたりました。「イムジン河」、「古いブルース」、「月が出た」、「エイジアン・パラム」等々に続き、ラストは代表曲、「清河（チョンハー）」への

道々48番」でした。新井英一（以下、敬称略）は三十歳半ばで初めて韓国を旅しました。行く先々で、生前ほとんど会話しなかったアボジを思い、面（ミヨン）役場でアボジと自分の名が記された戸籍を見つけました。やっと「自分のルーツ」にたどり着くことができたのです。「清河への道」がリリースされて一〇年後、つまり一九九八年二月一日に宇部市民会館で新井英一チャリティーコンサートが行なわれ、会場は満員の大盛況だったそうです。それから一六年後の二〇一四年二月八日に、再び彼のコンサートが開かれたので



新井英一さん(中央)と
遺族の全錫虎さん(右)

彼の「アボジの故郷（清河）」を訪ねる旅は、まさに新井英一すなわち朴英一（パク・ヨンイル）の「自分探し」であったのだらうと思います。新井英一のアボジへの

思いは、アボジを亡くした遺族たちの悲しみとどこかでしつかり繋がっていると思っていたのは私ひとりだけではないだろうと思います。夜の懇親会で、新井英一の絶えない笑顔がそれを物語っているようでした。

5・西光寺訪問

昨日の訪問が雪のため、急遽翌二月九日に変更しましたが、快く本堂を提供くださったご住職に感謝です。ご遺族一人ひとりが位牌を胸に抱きかかえ、その後、読経に合わせ韓国式の祈りが続きました。お寺の位牌はほとんど創氏改名により日本語で記されています。つまり、権五文（クオン・ゴブン）さんは福井五文、孫長平（ソン・チャンピョン）さんは密山長平、崔泰龍（チ



位牌を抱く遺族の方々（西光寺）

エ・テヨン）さんは山本泰龍、白漢欽（ペク・ハンフム）さんは白川漢欣というようになっているのです。

ずらりと並ぶ位牌を見て、私は一九九五年二月に亡くなった崔昌華牧師（チュ・チャンホア牧師、在日大韓基督教会小倉教会〈北九州市小倉北区〉）を思い出しました。チェ牧師は「名前は人格権である」と主張し自分の名を日本語読みしたNHKを相手に訴訟を起こしました。この裁判闘争が契機となり、一九八八年前後から韓国・朝鮮人の名前がハングル読みで切り替えられ、テレビはハングル読みで、新聞はハングルのルビをつけるようになったのです。チェ牧師の闘いの原点は、かつて有無を言わず高山昌華と名乗られ「人権侵害」された体験にありました。一八七（犠牲者数より四つ多い）の位牌はかつて段ボール箱に無造作に置かれていましたが、「刻む会」の運動により、今は立派な木の箱が用意され本堂の一角に安置されています。

6・船上からの見学

今回、床波漁港の元漁師さんのご厚意で、海上から水没事故現場を見ることができました。現場は、海岸から約一〇〇〇メートル、沖のピーヤからおよそ七〇〇メートル

の付近で、船をゆっくり旋回してもらいました。ご遺族は海に献花して、しばしの間沈黙。孫にあたる方は「そおつ」とお酒を



水没事故現場で献花する遺族の皆さん

注ぎながらハラボジ（おじいさん）に語りかけているようでした。

・「二月の風は海上でもこんなに寒いのに、アボジ！海の中はさぞ冷たいでしょう」。

・「アボジが異郷のこんな冷たい海の底に放置されたままではないはずがない！一日も早く故郷に連れて帰りたい」。

（乗船したご遺族の声）

一方海岸では、居残りのご遺族がピーヤに向かって祈っているのが見えました。水没事故付近は水深約一〇メートル弱、元漁

師さんの話では魚の集まる宝庫だったそうです。

7. 遺族との懇談会（まとめにかえて）

まず、ご遺族一人ひとりが感想を述べられ、「遺骨収集を是非お願いしたい」という声が多く出されました。また今回、孫にあたる三世代の方々が四人参加、世代交代が進んでいることを実感しました。次は孫の世代の皆さんの感想です。

・「オモニからいつも亡くなったハラボジの事を聞いていました。一度、現地を訪れたいと思っていました。今回、『自分の目』で見ることができたので、もう一度ハラボジのことをよく考えてみたいと思います」。

・「私はハラボジの顔も知りません。ハラボジが七二年前に亡くなったからといって、その悲しみがストレートに私の中に湧き上がってきませんでした。今回、炭住跡や事故現場を見、追悼集会に参列した経験を通し、祖父が犠牲になった『事実』と向き合いたいと思います」。

・「私は今まで祖父の死を正面から考えたことはありませんでした。今回は父の付き添いという感じで来たのですが、

追悼集会に参加し長生炭鉱跡地をみた今、『自分でも不思議な経験したことのないような気持ち』がしています」。

「刻む会」は、遺骨収集・返還に関しては今後の大きな課題ととらえ、その可能な方法・道筋を具体的に探っていきたいと思います。また、「長生炭鉱水没事故」は、アジア太平洋戦争時に起こったことを押さえ、「戦争は人間の命を軽視し『人権侵害』が当たり前のように行なわれたという事実」、さらに「日本は朝鮮の植民地責任を負う」という歴史の事実を多くの皆さんに伝えたいと思います。

最後になりますが、今「刻む会」は本年五月下旬に新たな組織化を図るため、正会員、賛助会員を募っているところです。皆さまのご協力、ご支援よろしくお願いいたします。



海岸で祈りを捧げる
ベクテンジャ
百澄子さん(左)と
福井栄吉さん(右)

活動日誌

(前回たより以降)

二〇一三年

▽ 二月一日(水)

朝鮮学校補助金カット抗議集会
「刻む会」より発言

▽ 二月二日(木)

「刻む会たより」発送作業午前
事務局会議(午後)

▽ 二月一九日(木)

洋上見学会

二〇一四年

▽ 一月一四日(火)

事務局会議

▽ 一月二三日(木)

宇部市との協議

▽ 二月四日(火)

事務局会議

▽ 二月七日(金)

追悼集会前日準備

▽ 二月八日(土)

韓国遺族来日、追悼式・追悼集会(新井英一コンサート)

▽ 二月九日(日)

遺族・西光寺訪問、「刻む会」との交流会・遺族帰国

▽ 二月一二日(水)

事務局会議

▽ 二月一七日(月)

宇部市との協議

▽ 三月一日(土)

臨時事務局会議

追悼式



追悼ひろばの説明
副代表：内岡貞雄



司会及び日本人碑文朗読
井上洋子



遺族会追悼文朗読
孫石川さん
今回初来日
犠牲者の孫にあたる

主催者挨拶
代表：山口武信



遺族会挨拶
会長：金亨洙さん



チェサ



追悼集会



新井英一コンサート



アンコールで遺族も一緒に踊りながらアリランを熱唱



2014 年追悼式・追悼集会
韓国より来日遺族 14 名
在日遺族 3 名
追悼集会では
新井英一コンサートを開催

【参加者の感想】

○アボジの魂、安らかなれ

林内隆二さん

願児我楽夢（がんじがらめ）ボーカル

数年前、福岡県人権研究所の主催で長生炭鉱「水非常」の歴史を辿る旅に参加した。内岡さん（現「刻む会」副代表）により企画されたフィールドワークは、海面に立つピーヤを望む海岸に、今だに石炭のかげらが打ち寄せるのを目の当たりにして、水没事故の日から止まってしまった時間を感じさせた。私たちが立っている砂浜のまさに数十メートル下に、あの日の事故の犠牲となった人々の遺体がそのまま放置されていることを考えれば、一同皆胸が潰れる思いだった。

寺の本堂で山口武信代表から語られた事故、そしてその後の経過、遺族の思いは、戦争が犯しうる最大の過ちであることと人間の愚かさを明確に告発していた。当時の政府は明らかに過ちと償いきれない罪を犯したのであり、ここにも一つの清算されない戦後があることを思い知らされる。

昨今、政府内閣の反動・右傾化著しく、私たちはいつか来た道を再び歩まされようとしている。また歴史分野では愛国者を標榜する輩が自虐史観からの脱却を口にする

が、問題は、事実がどうであるかということであり、事実に「自虐」も「他虐」もない。やってはならんことは自国だろうが他国だろうが、やっちゃんなんということがある。国ではなく人としてである。愛国心を口にする時、人は往々にして事実を見失ってしまいが、戦争という構造の中では、国民も主導権を握りたい軍部や軍需景気で儲けをたくらむ財界に操られ、生命を採られていく犠牲者であることを忘れてはならない。一日も早い犠牲者の鎮魂と二度と愚かな戦争を起こさぬ決意が、私たちに迫られている。



今も海の中に静かに立っているピーヤ（排気筒）
この下にはまだ犠牲者の遺骨が眠ったまま

○「憎しみの連鎖」を絶つために

高石伸人さん

NPO法人ちくほう共学舎「虫の家」事務局長

昨年九月、虫の家の会員旅行の折に、内岡貞雄さんに水没事故フィールドワークの水先案内をお願いしたご縁で、今回の追悼

集会のご案内を送っていただきました。

当日は生憎の積雪で、出発予定の九時を過ぎても高速道路の通行止めは解除にならず、私たち家族三人は、一度は諦めかけていたのですが、タイムリミットの十一時前になって、一部解除のテロップが流れて、急ぎ乗車して宇部に向かいました。

会場には近隣の知人のお顔も見えて、刻む会のネットワークの広さと、今だからこそそのテーマの磁力を想いながら、追悼の間を過ごさせていただきました。中でも、はるばる海を越えて集会にかけつけられたご遺族のご挨拶とその姿に触れたとき、「どんなにか悔しかろう。辛かろう」という想いがこみ上げて来て、後ろめたさの混じったこの国への憤怒が胸に溢れました。

それにしても今、自分たちの加害性から眼を逸らしてきた戦後のツケが、「憎しみの言葉」となつて重くこの国を覆っています。「従軍慰安婦はこの国にもあった。解決した話なのに、韓国は蒸し返すのか」と発言したNHK会長。「侵略戦争はウソだ」と訴えた候補が六〇万票を獲得した都知事選。そして「嫌中憎韓」の書籍が店頭の専門コーナーに並ぶという異様な光景。この異常な状況を、私たちは何とかしなければなりません。

○「追悼碑とピーヤと新井英一」

福田富美子さん

日本とコリアを結ぶ会（通称「ニコリ会」）

記録的な大雪予報のその日。前日の雪で「行けるかしら」の心配が嘘のように晴れた下関。午前の追悼式には参加できませんでしたが、午後の集會に、友人一名と「是非、新井英一の歌をもう一度聴きたい」女性と私の三人で駆けつけました。

一昨年の七〇周年には間に合わなかった追悼碑が昨年（七一周年）遂に完成し、その時の朗読劇「アボジは海の底」で更に思いを深くさせてくれました。そして今年は、更なる目標「遺骨の収集へ」動き始めました。

ここ数年日本は、あらぬ方向に進みつつあります。歴史の歪曲や「あったこと」を「なかったこと」にされたり、「強い・美しい国」などとまるで時間（とき）が逆戻りしたかのような富国強兵を叫ぶ輩に同調する人々が増えてきました。人の死を悼む時、自国（日本）の戦死者よりも、日本が侵略し苦しみを与えた他国の人々を悼むことの方が先であるはずで

す。新井英一の「歌を聴く」のは初めてでしたが、彼の叫びにも似た肉体すべてから発せられる声に、骨の髄まで圧倒されてしま

いました。その声（音・響）は海峡を越え、半島へそして世界へと、高く深く広がっていくように感じられました。会場を後にして、私はまだ追悼碑を訪れていない同行の二人と共に、ピーヤの見えるその地に行き、しばし、碑と海を言葉もなく眺めておりました。

○「ともに歩む」

広島友好さん（劇作家）

昨年の追悼集會で、わたしの書いた朗読劇「アボジは海の底」を上演させてもらった。七一年目にして念願の慰霊碑ができた年だった。ぜひとも朗読劇も成功させねばと微力ながら演出の仕事もさせてもらった。本番では、ご遺族を初め多くの観客とともに追悼の思いを共有する、熱い芝居を上演できたと自負している。自分なりに力を出し尽くし、達成感があつた。

今年の追悼集會では思いがけず来賓としてお招きいただいた。しかしそこには昨年とは違い、どこか他人事の自分がいた。

この一年間、わたしは何をなしたか？ 昨年は思いを傾け芝居を創り上げた。しかし今年は妻を慰霊碑に連れて行き、ピーヤを眺めたぐらい。わたしのなかで長生炭坑の悲劇は終わってしまったのか・・・式の間、

そんなことを考えていた。

そのとき、韓国の方のご挨拶のなかで、「今年も追悼集會が開かれて大変うれしい。慰霊碑が出来たことで区切りがつき、活動が終わってしまうのではと危惧していたから」

という話があつた。

「まだ父の遺骨は海の底です。収集の目途は立っていません。日本政府の謝罪も遺族への補償ありません」

その言葉にわたしは反省を促された。終わりじゃない。全然終わっていない。勝手に区切りをつけてはいけないのだ。

刻む会では新しい証言集が出され、会の組織も未来型になるという。新しい一歩を着実に歩き出している。

「会の方々が活動を継続されることを、大変心強く思います」

挨拶が終わり席に戻るご遺族の姿に、わたしもせめて・・・と思いを新たにしたい。せめて、ともに歩む伴走者でありたいと。



事務局会議報告

事務局長 小畑太作

二〇一三年十二月以降の事務局会議において、検討実施した事柄について主だったところを報告します。

☆「追悼集会」の実施について

当会にとって、この間の最も大きな出来事は「追悼集会」の実施ですが、会議において最も多く時間を割いたのもこのことでした。プログラムの企画立案検討から実施まで、これまでの経験を踏まえ、また今後への積み重ねとなるようにできるだけ丁寧な準備を進めました。実施には、実に多くの「刻む会」以外の方々の奉仕者により実現していることを明記し、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

☆「追悼碑」の拡充について

いくつかの追加工事を既に実施してきたわけですが、その中で、周囲に向けて設置した看板の文字が小さいとの提言を受け、改めて検討し、過去の検討の甘さを痛感しつつ「追悼集会」に間に合うよう修正工事をしました。合わせて、一年を経て、少し歪んでしまった銘板の修正と、若干の並べ替えを行いました。また、今後のこととして、長生炭鉱をテーマとした絵画を陶板で設置する案について検討を始めました。

☆「刻む会」の組織化について

前号『刻む会だより』に同封し、「追悼集会」で再配布した「会員登録票」により、二月二十七日現在で、正会員三十三名（うち団体三名）、賛助会員四十七名（うち団体二名）が登録下さっています。この場を借りて改めて感謝申し上げます。この場で借りて改めて感謝申し上げます。まだ登録のない方々には第二次募集を開始しますので、是非ご登録下さるようお願いいたします。現在、総会に向けて準備中ですが、前述の事柄などに追われ、十分な準備ができていません。速やかに準備を進めることを心にかけています。第一回総会は5月に宇部緑橋教会での開催を予定しています。

☆「追悼ひろば」所有権移転について

日本基督教団宇部緑橋教会への所有権移転の手続きを進めています。移転に伴う課税については、可能な限り減免となるよう手立てを講じています。

☆証言・資料集【2】『アボジは海の底―追悼碑完成！』について

編集担当者三名の方々を中心に内容を協議。担当者による編集作業を経て、事務局全員で校正作業に臨み、「追悼集会」での販売を開始しました。頒価300円です。ご注文は事務局まで。

☆宇部市長との協議について

宇部市行政との協力を点を見出すための、宇部市長との協議会を一月二十三日と二月十七日の

二回開催しました。市長の出席は未だ叶いませんが、新たに一名の市議会議員の出席を得たことは大きな励みです。これは、この度より市議会議員にも案内していることによりです。今後は、更に案内の幅を広げたいと考えています。いずれは会員の皆様にも、特にメールアドレスをご登録下さっている方々にはできるだけ早くにご案内できるようにしたいと思います。内容については、結果には到っていませんが、蝸牛のごとくでも進んでいます。

☆フィールドワーク受け入れについて

訪れて下さった方々にとって、より充実した機会となるように、洋上見学を検討しています。十二月十九日、試験乗船を行いました。また、追悼集会翌日には韓国遺族にも乗船してもらいました。今後のフィールドワークにおいて、プラン提供できるよう更に詰めていきます。

☆山口朝鮮初中級学校への助成金カット問題について

山口県政による今年度支出停止について、これまで学校関係者達の抗議行動を支援してきました。一方、宇部市政には今年度予算計上しておきながら執行を滞らせていたことに対して一月に執行を求める「要望書」を提出しました。二月中旬、宇部市政は漸く執行に至るものの、その後、次年度の予算に計上しないと発表。これに対して、二月二十四日「抗議と要望書」を提出しました。

☆「刻む会」一般会計報告（2013年12月1日～2014年2月28日）

（円）

収 入				支 出			
科目	期間実績	累計	備考	科目	期間実績	累計	備考
前期繰越金	0	200,000		事務費	17,410	19,750	
カンパ（寄付金）	440,000	828,346	期間協力者※	広報費	60,240	281,207	
物販	155,000	156,600	追悼集会チケット含	追悼碑管理費	78,728	135,931	ひろば整備費他
雑収入	1,000	5,685		活動費	1,321,041	1,346,214	追悼集会・資料集発行他
				会費・カンパ	0	16,000	
				雑支出	540	1,200	
				税金	0	53,449	
				小計	1,477,959	1,853,751	
				繰越金	-881,959	-663,120	
合 計	596,000	1,190,631		合 計	596,000	1,190,631	

※赤間 至 安部義祐 天野政子 安溪遊地 石田敏子 猪股誠司 岩本乾治 内岡貞雄 江柄勝雄
江木鶴子 呉 世憲 大隅督子 大野剛義 岡田淳子 金澤正善 川上和恒 木岡靖司 金 順子
木村郁恵 木村貞夫 香渡清則 斉藤秀子 坂 貞子 笹原克彦 白松哲夫 鈴木忠実
澄田亀三郎・典枝 関谷陽子 高橋 信 田崎敏孝 塚田 勲 戸井雄二 長澤連三郎 中島郁子
永富彌古 庭山真生 野村豊子 萩ルイ子 原田正暁 平井靖男 平岡恵子 福島直子 藤井舒夫
藤井和義 藤井泰子 牧野 哲 松井さとみ 松崎孝一 宮川恵子 宮田幸好 森田恒一 山口武信
山田 真 山本昌男 アジア共同行動山口 在日大韓基督教会小倉教会

在日本朝鮮人総連合会山口県本部 在日本朝鮮山口県商工会 在日本大韓民国国民団山口県宇部支部

在日本大韓民国国民団山口県地方本部 太陽家具百貨店 駐広島大韓民国総領事館

在日本朝鮮人総連合会宇部小野田支部 日本基督教団小郡教会 日本基督教団小野田教会

日本基督教団下松教会 日本基督教団下関教会 無窮花堂友好親善の会 追悼集会参加者

（敬称略）以上感謝をもってご報告いたします。

☆72周年犠牲者追悼集会支出内訳

（円）

科 目	支 出	備 考
会場費	46,425	空調・手話通訳含
事務費	12,330	
遺族宿泊費	97,640	19名分
遺族接待費	60,094	昼食×2・土産 他
遺族交通費補助	380,000	19名分
現地交通費	55,000	
コンサート	339,000	宿泊含
懇親会	77,000	遺族分他
雑費	13,027	
合 計	1,080,516	

☆「刻む会」特別会計報告（2013年12月1日～2014年2月28日）

（円）

収 入				支 出			
科目	期間実績	累計	備考	科目	期間実績	累計	備考
繰越金	0	5,259,766		ひろば追加工事		555,450	
繰入金	0	0		繰出金	0	0	
				繰越金	0	4,704,316	
合 計	0	5,259,766		合 計	0	5,259,766	

待望の証言・資料集【2】 『アボジは海の底—追悼碑完成！』 好評発売中！

頒布価格 300 円



水没事故 70 周年記念 【オリジナルポストカード】

1 セット 5 枚入り

頒布価格 ~~200~~ 円→100 円

地元写真家等によるピーヤの
写真絵はがき。カラー4 種、
モノクロ 1 種。

会員登録がカンパをしてくだ
さった方にはもちろん進呈



ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

新生「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」 総会を開催します！

日時：2014 年 5 月 24 日(土) 14 時～16 時

場所：宇部緑橋教会

【議案】

- ・「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」規約(案)承認に関する件
- ・議長選任に関する件
- ・議事録署名人選任に関する件
- ・運営委員選任に関する件
- ・会計監査委員選任に関する件
- ・2014 年度活動計画(案)承認に関する件
- ・2014 年度収支予算(案)承認に関する件
- ・その他

※なお、会員登録をされた方には、総会までに別途案内状をお送りします。

会員登録の第二次募集をしています。〆切 4 月 20 日です。同封の申込書をご覧の上、登録してください。ご協力よろしくお願いいたします。